

## 伊藤会長（山陽小野田市子連）インタビュー

### ■ 子ども会の現状と課題について

山陽小野田市は12校区あったが、7校区が外れた。小野田市と山陽町が合併した時に毎月1回の定例会と夏休み中は週単位で集まりがあって、保護者に非常に負荷がかかっていた。旧山陽町では月1回の定例会が必要なら開いていた。共働き等で時間が取れない保護者も多いが、ぜひ参加してほしいので、できるだけ負担をかけないようにしていた。しかし、負担が大きいということで7校区が外れた。

役員は順番で回る形だったが、それはできないと。「いや、決めたことだから、やってもらわないと困る」と厳しく言う人もいた。それで、「うちは市子連から外れて、独自の子ども会としてやっていくとなった。役員をどうするかが問題。今は原則的に定例会はしていない。総会の後は、行事等必要に応じて会議を開く。

会長を引き受けて10年になるが、子どもが好きなのでエネルギーをもらえる。ジュニアリーダーから36年以上子ども会にかかわってきてよかったと思っている。子どものために少しでも役に立てれば。子ども会に入っているいないにかかわらず、多くの子どもに参加してほしいが、会員ではない子どもの参加については否定的な考え方もあり、現状は会員のみを案内している。

子ども達が何をしたいか、どういうことをやってみたいか。いろいろな経験を踏まえて大人になってほしい。



### ■ ジュニアリーダーについて

コロナ禍でジュニアリーダーの活動が停止した。ポスターを作って各小学校、中学校に配布する。市内の高校にお願いに行ったら、快く協力してもらい、キャンプ等に率先して生徒が参加してくれる。その中にはジュニアリーダー経験者がおり、他市のジュニアリーダー経験者もいる。ボランティア部に入って一緒に活動している。各高校とも協力要請を受けてくれた。いろいろな形で協力しても

らっている。市内の子ども達の活動なので協力しますと。高校生が来ていいのは、子ども達とコミュニケーションがとれること。小中高と子ども達の中でコミュニケーションがとれる。例えば、お祭りがあると、子ども達が「お兄ちゃん！」と寄っていく。それを見て、やってよかったと。すごく親しみがある。高校生は地域の子供と思っただけで面倒をみてくれる。あいさつもちゃんとしてくれる。

子ども同士が声をかけることが大事かなと。地域の子供は地域で育てるのが基本。最近では注意しない大人が多いが、小さい時から知って入れば、悪い方向に走ることを防げる。地域の輪ができてくる。

ジュニアリーダーは高校を卒業した後のケアが非常に大事。中高の6年間ジュニアリーダーをやって、はい終わりじゃなくて、ユースリーダーとして活動してほしい。就職すると、職場に理解してもらえない。休暇を取ろうとすると、「どうして、ボランティアをするのか。仕事先やろう。」と上司から言われる。各企業に理解されると、ユースリーダーとして活動できて、上役になっても協力してくれるようになる。まだまだ社会的な認識が薄い。

## ■ これからの子ども会

一番の心配は、全子連、県子連、市町子連、支部・校区がちゃんとつながっていくのか。子ども会離れが進んでいる。ネット社会で「どうして入らないといけないのか」とネガティブに拡散されたらとても怖い。子ども会が必要だと理解している保護者もいる。子ども会と言いながら育成者の会になっているので、「子ども会」とは何なのか。以前、各校区の子どもを集めようとしたが、できなかった。今はZOOM等があるので、オンライン会議ができる。それも検討してみたい。行事を企画・実行し、子ども達を守る大人の存在も必要。子ども達だけではできない。ただ、あくまでも、子ども達が何をやりたいか。どんな活動をしていきたいか。子どもの気持ちに立っていくことがこれからの子ども会を存続させる一番の早道かなと。市町子連は単位子ども会を支援し、県子連は市町子連を支援する。その形が一番保護者にも負担をかけないのではないかと。子ども達も変化・成長していくので、何をやりたいかを聞いていく。現在、隣接の市町と子ども同士の交流がないので、それをメインに考えていきたい。ジュニアリーダーは研修会があるので、小学生の交流を考えていきたい。